

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 大台町	対談項目1 林業大学校設置について	林業大学校の大台町への設置について	<p>三重県の中南勢部は、県内でも特に林業が盛んな地域であり、当町でも作業道の作設や高性能林業機械導入による搬出間伐に積極的に取り組んでいるが、木材価格の低迷、国産材による建設の減少等、明るい兆しが見えてこない林業界において、後継者問題が深刻な問題となっている。</p> <p>このため、知事の政策集にもあるように林業大学校の設置は、地域の林業振興、ひいては地域振興に大きく貢献するものと考えている。また、町内の県立昴学園高校との連携を視野に入れることは、安定的に林業へ興味関心を持つ若者を確保することにつながるものと考えている。</p> <p>他にも候補地があると思うが、旧宮川村役場（現宮川総合支所）の2階や旧報徳病院が利用可能であり、町有林も2,000haほどあることから、当町へ林業大学校を設置いただきたい。</p>	<p>三重県の森林で50年を超えるものが、55%以上あり、伐採可能な状況にあるが、実際に伐採する担い手の確保が重要な課題となってきた。</p> <p>一方、三重県の森林従業者数は平成17年度の国勢調査では1,047人であったが、平成22年度の調査では、1,255人と僅かに増加しており、この5年間で、年齢構成も、60歳以上の割合が50%から34%に減り、40歳未満の割合が17%から28%に増加している。新規就業者数も年間40人程度いる。</p> <p>現在は、森林組合へ雇用される形の若い人が増加しているが、林業経営のノウハウを持った人々を増やしていく必要があり、人材育成のチャンスだと思っている。</p> <p>今後の検討方法として、先進地や最近開校したところ（平成24年に開校した京都府立林業大学校や今年開校した高知県立林業学校など）の情報を収集しながら、有識者に意見をいただき、対象者をどうするかを明確にしながら、現場のニーズを聞き、設置の場所等は、費用対効果、実習林が近くで確保できるかなどの観点で検討して行こうとしている。林業にかかわる市町の皆さんには、積極的に話を聞いていきたいと考えており、大台町からも提案をいただいたり、議論をしたりしていきたいと思っている。</p> <p>昴学園との連携については、昴学園の生徒にとっても、もし仮に大台町に林業大学校のようなものができ、連携できれば、いい刺激、いい経験になると思うので、林業大学校の検討を進めながらそのようなコラボレーションや、より効果的にできることがないかも併せて検討し、いろいろ提案を受けながらやっていきたい。</p>
大台町	対談項目1 林業大学校設置について	県立昴学園高校と林業大学校との連携について		

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
大台町	対談項目2 森林整備予算の確保について	森林環境税の導入、地球温暖化対策税の森林整備への充 当の国への提案	<p>平成28年度の国予算で、森林整備予算が大幅に減少するとの情報があるが、地球温暖化対策を推進するために林業振興は不可欠なものであり、森林整備予算の確保は非常に重要と思っている。</p> <p>これまでは、繰越、補正予算等で何とか前年比100%くらいでやってこれた。県の予算では、林業再生交付金が森林整備に充てられなくなり、これまで10億円程度あったのが、6億2千万円程度とかなり落ち込んでいる。森林整備予算の確保を国に要望いただきたいと思っている。</p> <p>2つ目に森林整備の安定財源ということで、新しい環境税ができないか。森林吸収源対策の財源確保と合わせて環境省では、自然環境の保全を目的とした新税の創設が検討されているようであり、この財源確保に向けて今後国にしっかり訴えていただきたい。</p>	<p>国の予算の確保について、全国知事会の農林商工常任委員会の提言の中にも林業のことが入っており、しっかり確保できるよう取り組んでいきたいと思う。国補造林についても、しっかり予算の確保、国への働きかけをしていきたいと思う。</p> <p>2点目、地球温暖化との関係で、森林吸収源対策に必要な財源として税の一部を森林整備に充てていくことについても、この5月に国へ行ったときに提言させていただいた。他の自治体でもそういう提言しているところが多く、自民党のプロジェクトチームでも議論がされているため、引き続き働きかけをしていきたい。</p> <p>国の新税構想については、環境省案としては、1人1日1円を国民に負担いただき、山、海、川を守っていくために必要な整備やソフト対策に使うということで、100億円くらいの規模の取組と聞いている。各自治体の森林環境税が30数件あるため、それらとの関係をどう整理するかという課題があるものの、もう少し具体的な制度設計、既存の制度との関係などしっかり注視、情報収集をしていきたいと思う。</p>
大台町	対談項目2 森林整備予算の確保について	県の森林整備予算の確保	<p>昨年度から森と緑の県民税が、実施されているが、この使い道については、林業振興と既存事業には当てないということになっているが、森林整備をしていく上で、縛りのきつい部分がある。すぐに見直しということではないが、導入から5年後くらいの時期に見直しも必要になってくると思っており、このことも少し頭の中に置いておいてほしい。</p> <p>森林整備予算については非常に重要であり、国補造林事業等、県に義務負担が生じることもあるため、財源確保についてしっかりお願いしたい。</p>	<p>三重県の森と緑の県民税について、条例施行のときに5年後の30年度に、事業の成果、評価等を踏まえ見直しをとることになっている。5年を区切りとして、毎年行っている評価委員会の評価を踏まえ、必要な見直しをしていきたいと思っている。ルールが使いにくい部分や、喫緊の課題に対応するための整備に使えない等の意見を様々なところでいただきたい。</p> <p>森林整備については、国補造林事業やそれを補完する県単造林事業により実施しているが、県としては、限られた予算を有効に活用するとともに、森林整備面積を確保するため、国補造林事業の実施に重点を置いて予算を配分しており、今後も整備を進めていくため、厳しい財政状況の中ではあるが、要望に応えられるよう森林整備予算を確保できるよう努めたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
大台町	対談項目3 お茶農家への各種支援と販路拡大の取組について	お茶農家への各種支援	<p>お茶の生産は三重県は、日本で3番目に入るが、取引価格が非常に安く、茶工場や設備更新の採算が合わない状況である。</p> <p>お茶の利用拡大、販売促進といった取組に対し、県ももっと力を入れていただく中で、海外への売り込みや大きなPR活動を積極的に推進するなど、伊勢茶を含めてジャパンブランドとして認知されて消費拡大が進められるよう取組をお願いしたい。</p> <p>最近、パキスタンやアフガニスタンへの取引が増えてきており、一定の期待は持っているが、国内では、ペットボトルに押されて、急須でお茶を飲む文化も徐々に減退し、今後もお茶の消費減少が続くのではないかと思っており、海外を含め、需要拡大、取引の拡大ができないかと思っているのでよろしく願いたい。</p> <p>中国の方から米とかお茶をギフト的に持っていききたいということで、大台町で何とかしてほしいという話をいただいた。また、中国から大台町に1泊～2泊で、30～40人の観光客が来て、伊勢神宮や松阪肉、ゴルフなどの希望があるが、移動方法やパンフレットがほしいという話もある。町としてもインバウンドをやっていこうということで、地方創生のソフト事業に組み込みながら取り組んでいきたいと考えており、県からの指導をいただきたいと考えているのでよろしく願いたい。</p>	<p>お茶の販路開拓、売出しについては、ミラノ万博に合わせてマーケティングを2週間くらいやったが、そこで伊勢茶を出させていただいて好評であった。ヨーロッパは衛生基準や生産履歴、点検等の評価を認証するGAPという制度や残量農薬を気にするところもあるため、GAPの取得の支援もやっていこうと思っている。</p> <p>県内の各種イベントや三重テラスでのPR、農業研究所による大台オンリーワン紅茶という商品づくりの支援もさせていただいており、今後もしっかり取り組んでいきたいと思っている。</p> <p>生産支援においても普及センターで、特に就農後5年以内の後継者等を重点支援対象に位置付けて、経営管理、栽培管理のスキルを高める個別指導等も行わせていただいている。また、防霜ファンの更新の補助、燃油の価格高騰対策に取り組んできており、販路開拓とそのベースとなる生産支援の両方をしっかりやっていきたいと思っている。</p>
大台町	対談項目3 お茶農家への各種支援と販路拡大の取組について	海外PR活動の推進		<p>来年、鈴鹿で全国お茶まつりも行うことになっているので、これも一つのチャンスとしてとらえながら、輸出の関係もヨーロッパだけでなく、台湾、マレーシアなどいろいろなチャンスをつかみながら、やっていける努力をしていきたい。</p> <p>今回サミットが、大変貴重な機会であり、お茶については何等かPR出来る方法を考えたいと思っている。また、いろいろな場面で提案いただけるようなところや方法も作っていきたくて考えており、提案もいただきたいと思っている。</p> <p>生産者の中には輸出とかを考えていない(輸出は一部の人だという話)かもしれないが、そういう販路開拓をしている人が身近にいるということは、全体の刺激にもなり、そこで新たな技術を身につけていくということになれば他に波及もしていく。お茶に限らずいろいろな生産についてみんなで全体のレベルを高くしていかないと裾野が広がっていかないのではないかと考えているので、お茶を輸出したいという人にはチャレンジしてもらえようようにしたいと思う。さらに、それをきっかけに生産現場に行って観光をしてみようということになれば最高だと思うので、そういう部分の支援をサミットを契機にWifiや言語の案内表示のことなどなるべく広い範囲でできるようにしていきたいと思っている。サミットの資産となるようにしていければと思っているので、協力してやっていければと思う。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
大台町	対談項目4 宮川の堆積土砂の除去について		<p>宮川の上流部にある土砂の除去を引き続き予算確保をしながら取組をお願いしたい。</p> <p>災害前と比べると非常に多くの土砂が堆積している中で、今回の台風のような600～700mmの降雨があると、更に堆積していくという状況があり、やがてそこに住めなくなるというようなことが出てくるのではないかと考えている。上流域に色々な治山、砂防施設を設置してもらっているが、堆積している土砂を取り除かないといけない。そのためには、土捨て場を作らなければならないが、町も一緒になって土捨て場の確保をしているので、肝心の予算の確保についてよろしくをお願いしたい。</p>	<p>1対1対談をスタートしてから、河川の堆積土砂の撤去について強く要請をいただいた。平成16年の災害、平成23年の災害等を踏まえて危険な箇所も見せていただいた。それ以来、河川堆積土砂撤去の枠のような予算を設けてずっとやってきたところであり、来年度もしっかりそういう部分が確保できるよう取り組んでいきたいと思う。</p> <p>昨年度は桧原橋周辺の撤去と半次郎橋から岩井橋の間と江馬地内で砂利採取を活用して取らせていただいているので、今年度は引き続き桧原橋の周辺のところを撤去させていただこうと思っている。残土処分地の部分もご協力いただきながら、何処を優先的に取っていくかを協議しながら進めていければと思う。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
大台町	対談項目5 伊勢志摩サミット開催による波及効果について	サミット開催による波及効果について	<p>伊勢志摩サミットが賢島で開催されることは嬉しく思っており、三重県への経済効果も大きいと思っており、しっかりと応援していきたいし、できることがあれば言ってほしい。</p> <p>来年の今頃、大台ヶ原・大峯山ユネスコエコパークが拡張登録される予定で、奈良県の1市6村と大台町で協議会を作り取り組んでいる。海外から訪れる人も多くおり、興味をお持ちいただける部分もたくさんあるのではと思っている。伊勢志摩サミットの開催を契機として、県南部地域への波及効果につながる取り組みをお願いしたい。</p> <p>洞爺湖サミットで出されたお茶が有名になっているようであるが、大台町もお茶の産地であり、お茶を首脳の方々に飲んでいただけるようなことを検討していただきたいし、首脳かその周りの方が大台町に足を延ばしていただき、アユの時期なのでアユも食べていただければと思っている。</p> <p>警備や報道の人もすごい数になるようだが、鈴鹿、亀山の方のホテルが5月末までの予約は入ってもらわないというくらいまで広がっているようだが、こちらの方も入っているのか。入っているのであれば結構だが、入っていないようであれば何とかしてもらわなければならないと思っていたのでよろしく願いたい。</p>	<p>県の情報提供が進んでいなくて、各市町の皆さんにどういった提案をいただいているかという取組をいただければいいかという情報提供がまだまだ不十分なところは申し訳ないと思っている。</p> <p>我々も国を待たずどんどん提案していかなければいけないだろうと思っていて、市町の皆さんには提案していただいて、国で断られるかもしれないが、一緒になって提案をしていきたいと考えている。ちょっとそういう意味では迷惑をかけるかもしれないが、積極的に取り組んでいきたいと思っているので、近いうちにどういう風にどういう場面のものを提案していただければいいか、というのはお示ししたいと思う。</p> <p>今の話のお茶とかは県で提案できる余地があり、サンアリーナの中に5,000人くらいの海外のメディアが来るメディアセンターをつくる。そこに三重県情報館というのを作って、食も提供していただけるブースにしていこうと思っているので、市町のものを提案いただくことを考えたいと思う。</p> <p>2つ目に、首脳が食べたりするディナー、朝食、ランチなどで何を出すかということ、3つ目として、配偶者プログラムで(1泊2日と限られているが)県内をいくつか回っていただく際にどういう場所に行き、どういうものを食べていただくかといったことが提案できる。</p> <p>4つ目に海外のプレスツアーという、G7の参加国以外のメディアを対象に今回のG7はどんな場所で行われるのか知ってもらう事前のプレスツアーを1番早いものでは秋ぐらいに実施する。北海道洞爺湖のときは15回くらい行ったが、私はそれよりたくさんやりたいと思っている。そういったプレスツアーで大台町にも来てもらうといった部分の提案をいただくようなことが可能。</p> <p>あと、Jサミットといって高校生たちが数日間、(今年のドイツでは9日間)の行程でどこか視察してもらって提案を行う、といった5つくらいの提案パターンがあるのかと思っている。そういったものをこの場でこういうものと言っていたらいいようにする仕掛けを考え、仕組みを示したいと思っている。</p> <p>お茶と県産材については、しっかりPR出来る場面を考えているので、いろんな提案をいただける仕組みを考えているのでよろしく願いたい。</p>
大台町	対談項目5 伊勢志摩サミット開催による波及効果について	南部地域への波及効果について		